東京都立八王子特別支援学校
平成28年度　公開研究会

研究概要

「一人一人のことばの力を高める授業づくり」
～教科指導で育てる思考力・判断力・表現力～

研究テーマにおける「ことば」とは

音声、非音声に限らず、絵や写真などの視覚的な情報手段やクレーンなどの具体的な行動など、一方では、思考・判断のために頭の中で処理している言語的な内容も含んだ、広い意味で捉えています。

全ての児童・生徒にとって、
伸ばしたい「ことばの力」があるはずです。

昨年度までの研究から

児童・生徒の実態を把握し、課題である特定の言語機能や学習内容に**焦点化**して研究を行った。

言語理解
語い力・概念形成
ＩＣＴ　等

流暢性
たどたどしさの軽減
構音　等

自発語
代替手段・ＩＣＴ
発声・発語　等

対人使用
ＰＥＣＳ・ＩＣＴ
等

論理性
構文　５Ｗ１Ｈ
理由・条件・家庭
等

記憶
ワーキングメモリ
聴覚的把持力　等

これらの力が足りないと、ある場面で、あるつまずきがあって、思考できないか、判断できないか、表現できないかに陥ってしまう。

これまでの研究から整理した、本校の指導のベース

分かる授業がことばを引出す

- アセスメント
- 障害特性の理解
- 日々の観察

- 構造化
- 刺激の軽減
- 動線の工夫
- 学習形態
- ICT活用
- 教師のことば

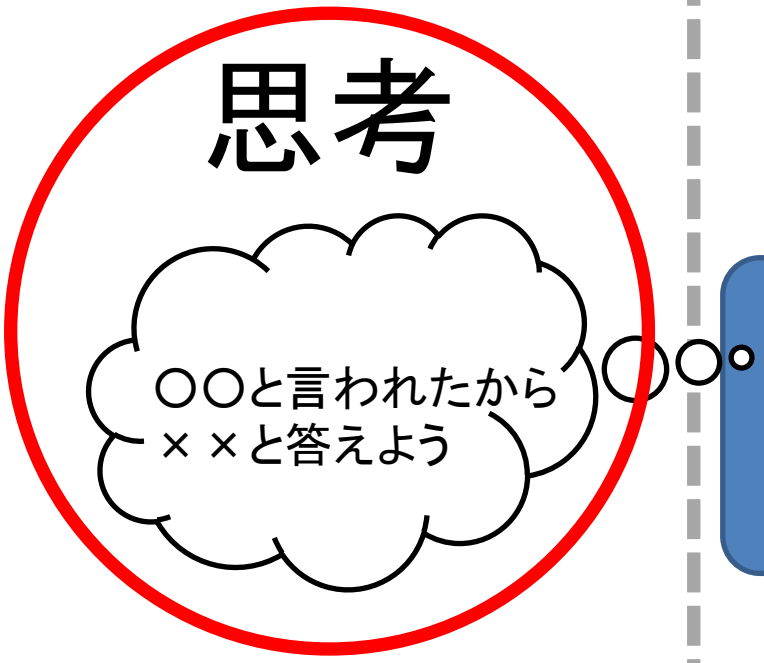
- 教師のことば
- 好子の選定
- 即時評価

- スケジュール
- 手順書
- コミュニケーションブック

思考力・判断力・表現力

主体的な表出性から主体的な応答性
～入力に見合った出力ができているか～

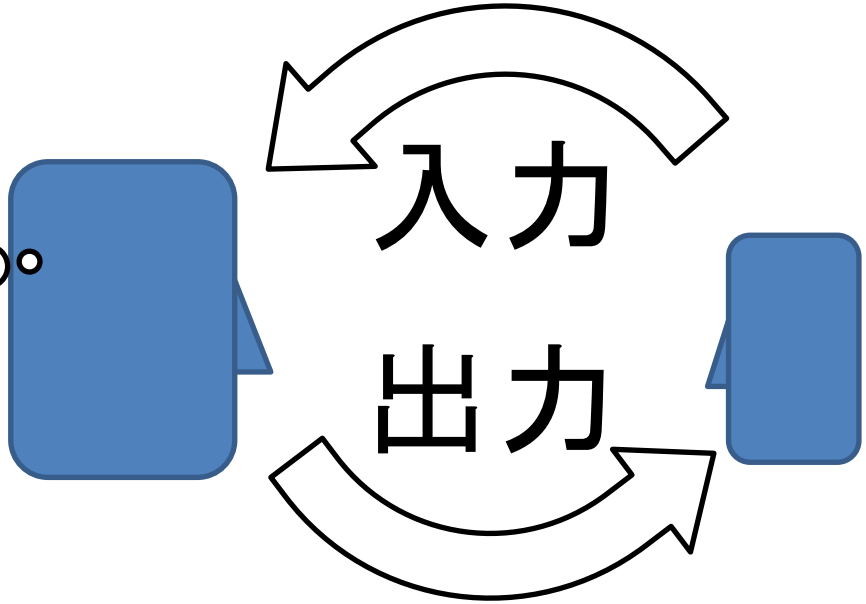
今年度の研究



考えさせるには…
・発問はどうあるべきか
・教材はどうするか　など

昨年度までの研究

・アセスメントに基づいた配慮
・教材の提示　など



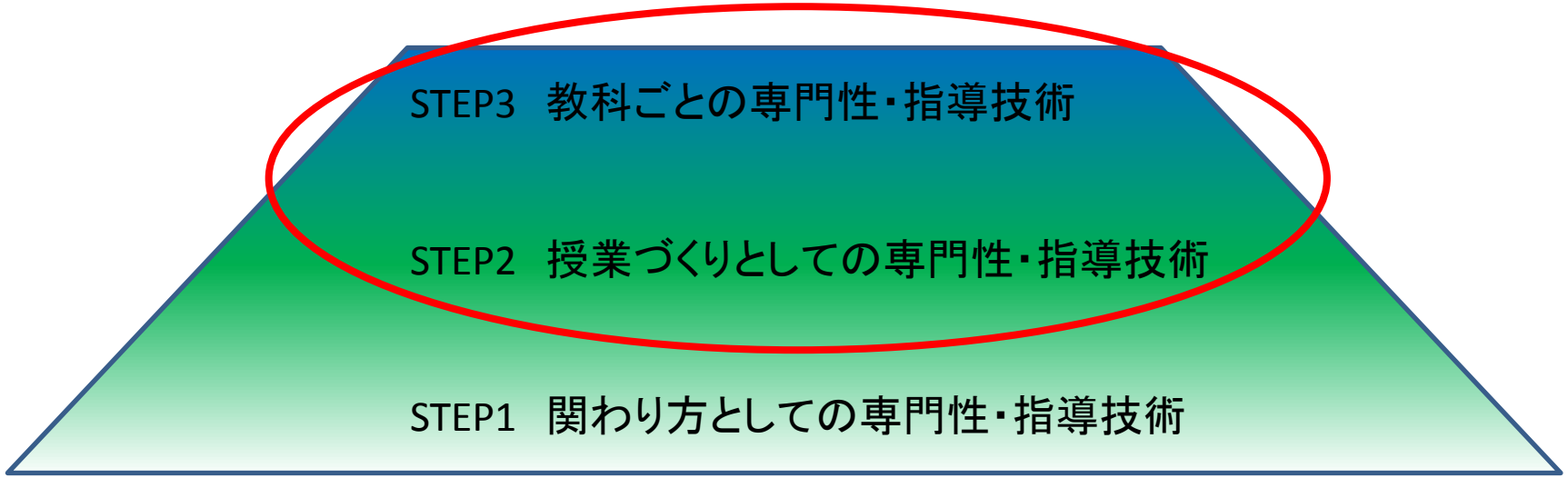
・コミュニケーションツール
など

今年度の研究のねらい

昨年度までの研究活動を、児童・生徒への関わりの基礎ととらえる。（STEP1）

その上で、授業における指導技術の向上を、児童・生徒の「思考・判断・表現」に焦点を当てて研究する。（STEP2）

更に、各教科ごとにおける、特徴的な指導方法、指導技術についても研究を進める。（STEP3）



組織体制

言語能力向上プロジェクト（言語能力向上拠点校事業）

研究推進プロジェクト（言語能力向上拠点校事業の第一の柱）
・担任部や分掌部を問わず編成
・研究や研修の方向性

教材・教具開発部
・教材・教具作成のアドバイス　など

OJT研究研修部
・研究の下支えとなる研修の講師派遣依頼
・公開研究会準備　など

教科A

- グループ研究推進委員
  - 研究グループ
- グループ研究推進委員
  - 研究グループ

教科B

- グループ研究推進委員
  - 研究グループ

……

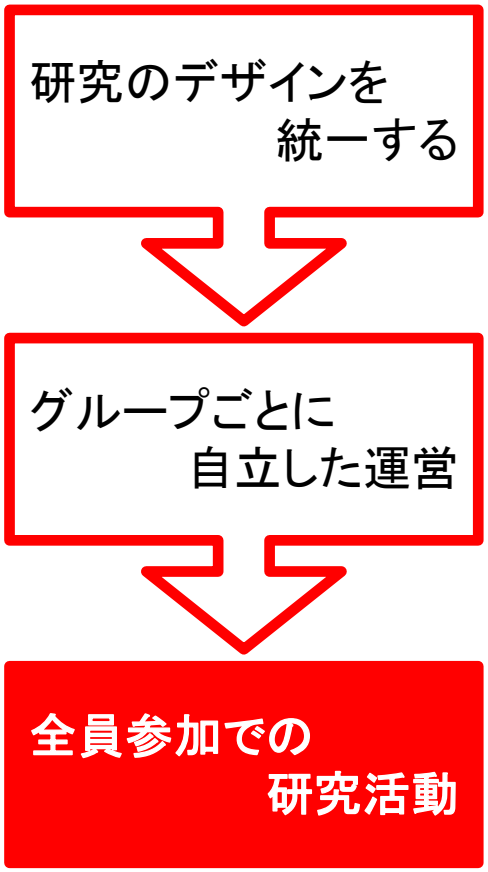
……

・全員がいずれかの教科グループに所属
・教科によっては、その中をさらに複数のグループに

図書活動推進プロジェクト（言語能力向上拠点校事業の第二の柱）
・図書委員会を中心に

組織内での役割

- プロジェクトチームでお膳立て
  - 協議会の進め方の提示
  - 研究紀要の執筆方法
- グループ研究推進委員の役割
  - グループ研究の進行管理
  - グループ研の協議会の進行
  - 中間発表会・公開研究会等での発表
- グループメンバーで行うこと
  - 研究授業対象者の選出
  - チェック表を活用した授業評価
  - 指導方法や教材のアイディアを出し合う
  - 研究紀要の執筆



研修計画

実施月	内容	講師
４月	新転任者向け研修	校内
４月	軽度発達障がいと呼ばれる子どもたちの理解と対応	たすく（株）　齋藤　宇開　氏
７月	神経心理学講座①	早稲田大学　坂爪　一幸　氏
７月	校内人材研修	校内教員
８月	研究中間発表会	校内
８月	教材教具発表会	校内
８月	アクティブ・ラーニングについて	国立特別支援総合研究所　武富　博文　氏
８月	神経心理学講座②	早稲田大学　坂爪　一幸　氏
８月	軽度発達障害の生徒の行動への対応	宇部ﾌﾛﾝﾃｨｱ大学　小栗　正幸　氏
１２月	言語技術教育について	つくば言語技術教育研究所　三森ゆりか　氏
１月	神経心理学講座③	早稲田大学　坂爪　一幸　氏
１月	公開研究会	たすく（株）　齋藤　宇開　氏
２月	本年度の研究の成果と課題	たすく（株）　齋藤　宇開　氏

研究グループ編成と研究スケジュール

◆ 受け持つ授業や希望などを踏まえ、５～１０人の規模による、教科・領域別のグループを編成した。

国語（１～８）　算数・数学（１～２）　理科　社会　英語
情報　職業　家庭科　作業学習
音楽　図工・美術　体育　社会性の学習（１～２）

計　22グループ

◆ １学期（５～６月）をⅠ期　２学期（９月～１１月）をⅡ期
各グループ計2つの授業を研究授業として取り上げる。

各期ごとの研究活動の流れ

研究授業　（グループメンバーによる参観）

↓

事後協議1　（ビデオによる観察とチェックリスト記入）

↓

事後協議2　（チェックリストに沿った改善案の設定）

↓

改善授業　（事後協議を踏まえての参観）

↓

改善協議　（事後協議で立てた視点の検証）

指導案での焦点化

どのような 思考・判断を させるのか	授業場面で児童・生徒にさせたい思考・判断について、指導案に書くことによって明確化する。
どうしたら 「できた」と みなすのか （表現）	思考・判断は、その結果としての表現がないと顕在化しない。 そのため、評価すべき表現についても明確化する。

チェックリストを用いた授業観察

発問　指示
１　生徒が理解できる言葉を使っている。
２　ねらいに沿った発問をしている。
３　意図的に、計画的に発問している。
４　答えられなかった時の準備がある。
５　肯定的な表現をしている。
６　選択式の問いをしている。
７　答え方のモデルを示している。
８　理由などを考えて答える発問になっている。
９　分かる教材を使った指示になっている。
１０　手順書、指示書が準備されている。

チェックリストを用いた授業観察

活動　展開
11　ねらいを達成させる活動になっている。
12　自ら取り組む活動を準備している。
13　自ら取り組むことを待つことができている。
14　できる教材を用意している。
15　達成感をもてる活動を準備している。
16　繰り返し等、活動量を保障している。
17　モデルを使った活動を準備している。
18　児童・生徒がつまづいた時に、自分で解決できるよう準備している。
19　活動にルールを設定している。
20　適切にガイドしている。
21　自ら取り組むことができるための手だてを準備している。

シートを活用した協議

グループ研究【改善協議】

改善協議会後に入力

本実践の思考	どのような思考・判断をさせるのか	
	どうしたら「できた」とみなすのか(評価)	
採用するアイディア		

				時間
ビデオを通じた改善授業の参観				10
1回目の研究協議会での意見	項目	実践を通じた検証	さらなる改善のアイディア(あれば)	10～15
チェックリストを通じた協議				
教科や思考に関する協議				

本実践でわかったこと		5～10

・思考させたい内容を明記

・チェックリストに基づいた意見集約

・協議時間の目安も提示

・1回目の協議内容の結果を
2回目のシートにも反映

論点の整理

円滑な進行

校内の一貫性

校内での共有

８月　中間発表会
Ⅰ期の研究を、ポスターセッションの実施により校内で共有

１月　公開研究会
外部に向けて実践を公開
発表対象グループの実践は校内でも共有

２月　校内研究会
Ⅱ期の研究の共有と、成果と課題についての整理

成果として　1

考えるための準備

児童・生徒に思考させる前段としての環境設定

授業の流れを一定にする
考える手順を示す
答えを書く場所などを明確にする
回答の方法をルール化する

発問の際の教師のことばに気をつける
児童・生徒が考えるための時間を十分に確保する

思考・判断させたい内容以外のところで、迷ったりわからなくなったりさせない

成果として　２

考えるための仕掛け

児童・生徒に思考させるための手だて

情報をあえて隠す
どの問いにも属さない選択肢を加える

安定した授業環境の上に、
少し不安定な要素を重ねる

選択肢をことばに出して伝える

思考させたい内容の強調、焦点化

成果として　３

考えるための材料

思考に使うための「ことば」の指導

体験活動を言語化する

思考のためのことばがわかる→そのことばで思考する
というステップの意識

児童・生徒が、思考に使うための「ことば」を学習する機会の保障

成果として　４　考えることによる学び合い

思考に視点を当てた授業における、
児童・生徒相互の関係

他の児童・生徒を活動のモデルとする
集団での話し合い活動
ロールプレイ
他の児童・生徒に教える

より深い思考へ
児童・生徒同士が学び合う学習へ